

「敬語の指針（報告案）」に寄せられた意見の扱いについて

寄せられた意見を、敬語ワーキンググループで慎重に検討した結果、以下の8点について更に検討を加える必要があると判断した。

1 <よりどころのよりどころ>という指針の性格に関して

- ① <よりどころのよりどころ>の意味をより明確化するという観点
→ 諮問理由にある「敬語が必要だと感じているけれども、現実の運用に際しては困難を感じている人たちに対して、敬語の適切な運用に資する具体的で分かりやすい指針を作成することが必要だと考える。」という文言との関係。

2 5分類とすることに関して

- ① 最終的に、5分類で示すかどうかという観点
② 5分類とすることの理由をより明確化するという観点
③ 5分類と3分類との関係をより明確化するという観点
④ 謙譲語Ⅰ、Ⅱの名称の問題
⑤ 美化語にかかわる問題

3 用語「相互尊重」に関して

- ① 「相互尊重」を「単なる理想論（空論）」にすぎないとか、「悪平等主義」とか
ととらえた読まれ方の扱いの問題（例えば、「13」の意見）
→ 第1章の記述に、どのように反映させるか

4 用語「立てる」に関して

- ① 指針における「立てる」の意味をより明確化するという観点
→ 用語「立てる」の受け止められ方の問題
A：「顔を立てる」のイメージとの関係
B：「立てる」のイメージが拡大されている問題（例えば、「27」の意見）

5 用語「へりくだり」に関して

- ① 第2章、第3章の解説の中で、この語を用いるかどうかという観点
→ A：「へりくだり」は日本の大切な文化というとらえ方
B：<謙譲語＝へりくだり>というイメージが一般的であるから、そのイメージを解説の中に持ち込んで分かりやすい記述にすべきであるという考え方
② 「謙譲語のとらえ方」及び「敬い」との関係

6 「いただく」のとらえ方に関して

- ① 「いただく」の誤用の範囲をどうとらえるかの問題（例えば、「5」の意見）
→ 第3章の記述に、それをどのように反映させるか

7 言葉の変化との関係について

- ① 言葉の変化を踏まえていないというような指摘の扱いの問題
→ 「敬語の指針」の基本的な性格との関係（記述に反映させるか）

8 より分かりやすい指針とするための工夫について

- ① 解説・説明の記述の仕方
→ A：もう少し丁寧に記述すべきところはどこか
B：図を入れるなど、視覚の面から工夫を加えるところはどこか
② (※)「敬語の指針」に、索引・詳細目次（第3章の問い一覧）を付すこと